「自他の生命を守り抜き、地域社会に貢献できる生徒の育成
～中学校３年間を見通した防災教育を通して～」

令和５年度　高知県学校安全総合支援事業（災害安全）

南国市教育委員会　拠点校　南国市立香長中学校

１　事業の目標

（１）モデル地域の現状及び安全上の課題

モデル地域の香長中学校区の南端は太平洋に面している。南国市から 2015 年３月に出された津波ハザードマップによると、校区の３割が最大クラスの津波による津波浸水想定区域に入っており、津波への警戒が必要となっている。また、校区には住宅密集地や古い建物が立ち並ぶ集落も多く、建物や塀の倒壊が考えられる。さらに、山があり山崩れ等の危険もある。だが、津波災害が予想されていない大篠小学校区はもとより、津波災害が予想されている残りの３小学校区でも地域で行われる防災訓練への参加はごく一部の者に限られている。地域、世代をつなぎ防災意識及び防災力を高める必要がある。

（２）モデル地域の事業目標

高知県は、防災教育の目的に「最強クラスの南海トラフの巨大地震が、いつどこで発生しても、子どもたちを一人も死なせない」を挙げている。それを受け、南国市では、南国市教育振興基本計画で、教育の６つの柱の１つに「防育」を位置づけ、防災・減災の取組の推進を図ることとした。各学校は、各地域、各世代をつなぐ役割を担い、地域とともに防災意識、防災力を高めるために次の２点を行う。

①南海トラフ地震や津波・土砂災害等の自然災害に備え、学校での防災教育の充実を図る。
- 「知識を備え自分事として正しく判断する力」「自分の命を守り抜く力」「地域社会に貢献できる力」を育成する。
- 地域・学校の特色や強みを活かした防災教育を開発する。

②地域や防災関係機関との連携体制の強化・充実を図るための取組を企画し、実施する。また、その関係を研究指定後も継続していく。
- 取組をリードする拠点校として、先進的でモデルとなる防災教育を研究する。
- 拠点校の取組は、実践委員会を中心にして、中学校区の各学校や地域等と連携し深めていく。さらに、拠点校における公開授業や実践発表会等、南国市主催の防災教育研修会や校長会を通じて、市内全域で情報を共有して防災教育を中心とする安全教育の質を高める推進体制をとる。

２　モデル地域の取組の概要

（１）安全教育の充実に関する取組

ア　安全教育の充実に関する取組

①行政や地区防災連合会等との連携
- 防災マップづくり（各地区の自主防災連合会）
- 防災食づくり体験（南国市食生活改善推進協議会）
- 避難所運営ゲーム（南国市危機管理課）
- 避難所運営体験（南国市危機管理課、地区自主防災連合会）

②様々な状況を想定した効果的な避難訓練の実施（年９回）

③生徒対象の防災意識調査アンケートの実施（２回）

イ　安全教育の取組を評価する・検証するための方法について

生徒を対象とした年２回（４月・11 月）のアンケートの結果をとり、その結果から評価・検証する。

（２）組織的取組による安全管理の充実に関する取組

・南国市防災教育研修会の学びを活かし、危機管理マニュアルを使った校内研修や、マニュアルの見直しを行った。
・各学年の防災学習では、行政や地区防災連合会等との連携を図った。
・12 月２日（土）に、防災教育研究発表会を開催し、１年生の授業公開と、これまでの研究内容や学びを公開した。

（３）学校安全推進体制の構築及び学校安全担当教員の資質向上に係る取組

５月 11 日（木）に高知大学防災推進センター岡村眞客員教授をお招きし、避難訓練の様子を見ていただいき、訓練の講評もいただいた。そして、全校生徒を対象に「命・家族・町、そしてみんなの未来を守る防災・減災」と題して講演をしていただいた。

また、同日に行われた南国市防災教育研修会では、南国市の土地や地形の特徴、そのために起こると考えられる災害など、防災意識の向上に努めるとともに、安全教育に関する指導力の向上を図ることができた。

（４）その他の主な取組について

８月に実施された南国市・岩沼市小中学校交流事業では、本市から宮城県岩沼市への派遣が行われた。本校からは教職員３名、生徒４名が参加した。

また、10 月には、岩沼市から訪問団が来校し、お互いの各学校での取組等を共有し、先進的な防災の取組について学ぶことができた。

３　拠点校の取組

（１）拠点校の目標

近い将来発生すると予測されている南海トラフ地震がいつ発生しても、自分の命を自分で守ることができる知識と対応力を生徒に身につけさせることが重要であると考える。そのための取組を公開授業や実践発表等で情報発信し、地域と共に防災に対する意識向上と、推進体制を構築する。

〇様々な自然災害を理解し、安全な生活を実現するために必要な知識や技能を身に付ける。
〇必要な情報を収集し、安全な生活を実現するために何が必要かを考え、行動するために必要な力を身に付ける。
〇安全で安心な社会づくりに貢献しようとする態度を身に付ける。

（２）具体的な取組

①香長中学校区防災教育実践委員会の実施（年３回）

②様々状況を想定した効果的な避難訓練を実施した。（年９回）

【避難訓練実施内容】

回	月日	種別	予告	時間帯	備　　考
1	4/13	地震	無	授業中	シェイクアウト訓練 事前の周知がなくても、生命を守る行動・知識を習得する。
2	5/1	地震 津波	有	終学活	安全確保後　２階以上に１次避難 事前の周知で、１階のクラスは津波からの避難のため２階以上に避難する。迅速、冷静かつ安全に、生命を守る行動・知識を習得する。
3	5/11	地震 津波	無	授業中	安全確保後　２階以上に１次避難 事前の周知がなくても、迅速、冷静かつ安全に、生命を守る行動・知識を習得する。
4	6/7	地震 津波	無	授業中	安全確保後　２階以上に１次避難 事前の周知がなくても、迅速、冷静かつ安全に、生命を守る行動・知識を習得する。
5	9/1	地震	無	授業中	シェイクアウト訓練 事前の周知がなくても、生命を守る行動・知識を習得する。
6	9/25	地震 津波	無	終学活	安全確保後　２階以上に１次避難 事前の周知がなくても、迅速、冷静かつ安全に、生命を守る行動・知識を習得する。
7	11/15	地震 津波	無	掃除中	安全確保後　２階以上に１次避難 事前の周知がなくても、迅速、冷静かつ安全に、生命を守る行動・知識を習得する。
8	12/15	地震 津波	無	昼休み	安全確保後　２階以上に１次避難 事前の周知がなくても、迅速、冷静かつ安全に、生命を守る行動・知識を習得する。
9	1/24	地震 火災	無	授業中	地震後火災発生 事前の周知がなくても、１次避難ができ、その後、火災が発生、迅速、冷静かつ安全に避難することができる。また、教職員の初期消火や非常持ち出し袋等の確認を行う。

③防災アンケートの実施

４月、11 月の２回実施し、成果と課題の検証を行った。

④２年生を対象とした起震車体験（５月）と救命講習（３月）の実施

⑤防災士の資格取得（８月）

南国市で中学生の資格取得の募集があり、本校では、１年生８名、２年生 14 名、３年生２名、計 24 名の希望があり、１次合格者は 12 名であった。

⑥「防災参観日」の実施（10 月）

１年生　「家族会議」に向けて

２年生　「ＨＵＧ（避難所運営ゲーム)」を体験しよう

３年生　「防災小説」学級発表会

⑦「伝言ダイヤル１７１」体験利用の周知

防災週間に合わせて、『災害用伝言ダイヤル』の体験利用ができることを各家庭にお知らせし、地震などの災害時にすぐに使えるように、一度体験してもらうようにお願いした。

⑧授業実践（総合的な学習の時間）

＜１年生＞

・「防災パンフレット」の作成

南国市が発行しているハザードマップを基に、各地区の自主防災連合会の方々に協力いただき、フィールドワークを行い、「自分の命を守り、地域の人を守ることのできる」ための「防災パンフレット」を作成した。

・「家族会議」

「防災パンフレット」を使って家族会議を行い、登下校中に地震が起きた際の身を守るための正しい行動や、避難時の集合場所、避難方法などを家族と確認した。また、地域とのかかわりを見直し、自分の命や家族の命、地域の人々の命を守るためにはどうすれば良いのか、何を準備しておけばいいのかを学習した。

＜２年生＞

・「防災食調理体験」

南国市食生活改善推進協議会の方々に協力をしていただき、被災時に、「食」について想定されることを講義していただき、調理体験を行った。

・「避難所運営ゲーム（ＨＵＧ）体験」

南国市危機管理課の方々に協力をしていただき、避難所運営ゲームを体験した。

＜３年生＞

・「避難所運営体験」

南国市危機管理課の方々と地域の防災会の方々に協力していただき、避難所運営を体験した。

・「防災小説」の作成

３年間の防災学習のまとめとして、もし地震や津波に見舞われたとき、どんな状況になるかを自分や家族・友達を思い浮かべながら想像して短編小説を作成した。

（３）取組における成果と課題

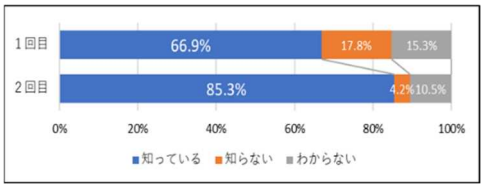
防災意識調査アンケートの結果から（４月、11 月に実施）

〇成果

【地震に対する意識】

「あなたは、学校にいるときに地震が起きたあと、避難する安全な場所を知っていますか」

・11 月のアンケート結果では、避難訓練を繰り返し行ったことにより、「知っている」と回答した生徒が４月から約２割上昇し、85.3%となった。特に１年生は 94.7%と高い数値となった。

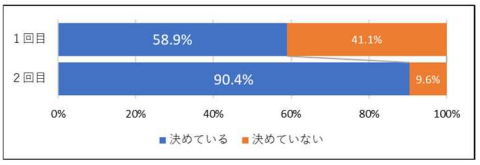


【家族との話し合い】

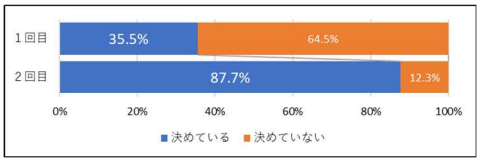
「あなたは地震などで避難した後に、家族と集合する場所を決めていますか。」

「あなたは地震などで避難した後に、家族との連絡のとり方を決めていますか。」

・11 月のアンケート結果では、全学年「決めている」と答えた生徒は増加した。特に、１年生では、防災マップを作成し、それを利用して「家族会議」を行ったことで、家族と集合する場所を「決めている」は、４月 58.9%→11 月 90.4%、家族との



連絡のとり方を「決めている」は、４月 35.5%→11 月 87.7%と大幅に増加した。

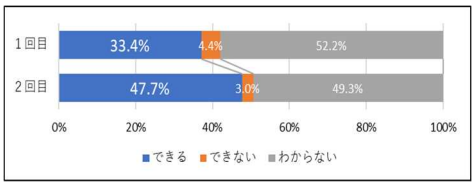


●課題

【地震に対する意識】

「あなたが、一人で登下校しているときに地震が起きたら、安全な場所に避難することができますか」

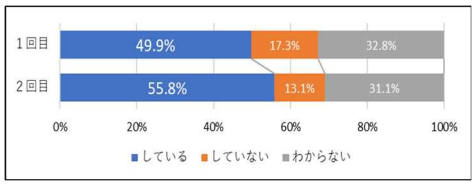
・11 月のアンケート結果から、登下校中どこにいるかわからず、その時になってみないと「わからない」と考える生徒も多くいることが考えられる。今後は、登下校中に地震が起こったことを想定した避難を学習に取り入れていきたい。



【家族との話し合い】

「あなた（あなたの家）は、地震に備えて準備していますか」

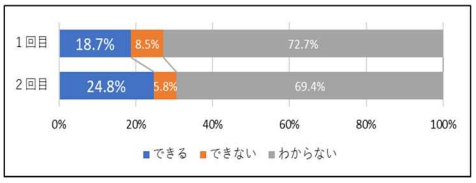
・11 月のアンケート結果では、半数程が「している」と答えている。しかし、「わからない」の割合が高い。今後は、生徒が家庭の中で中心となり、家庭の防災力を高めていくような取組を進め、家庭との連携を図りたい。



【地域との連携】

「あなたは、地震発生後に、周りの人の安全のために何かできることはありますか」

・11 月のアンケート結果では、「できる」と回答した割合が若干高くなり、「できない」、「わからない」が減少した。防災学習の取組により、周りの人の安全にも考えられるようになってきていると思われるが、全体の４分の１にしか過ぎない。地域貢献の視点に立ったカリキュラムを組み込む必要がある。



４　事業の成果と課題

○成果

・避難訓練は、計画通り実施することができた。また、生徒は無言で素早く安全を確保することができており、次の指示もよく通った。繰り返し行ってきたことで、望ましい行動が、自然と身に付いてきているものと思われる。

・総合的な学習の時間の防災学習の単元では、地域の自主防災連合会、南国市食生活改善推進協議会、南国市危機管理課の方々の協力により、レベルの高い学習ができ、生徒の防災の対する意識が高まった。

・１年生では、地域の自主防災組織と連携して、防災マップを作成（２年生は昨年度実施）したことで、どこに避難場所があるかわかり、「知らない」の割合が減少したものと思われる。

・１年生の「防災マップづくり」では、実際にフィールドワークで様々な地域の避難所や防災に対する備えの現状を知ることで、自分たちの登下校で使う道や南国市内のよく行く場所からどのように避難すれば良いかを自分事として考えるきっかけになった。

・１年生の「家族会議」では、作成した防災マップを活用して家族会議を行うことで、地域防災の現状と自分との関わりをより一層理解し、登下校中に地震が起きた際の身を守るための正しい行動や、避難時の集合場所、避難方法などを家族と確認した。また、地域とのかかわりを見直し、自分の命や家族の命、地域の人々の命を守るためにはどうすれば良いのか、何を準備しておけばいいのかを考えることができた。

・２年生の「防災食づくり」「避難所運営ゲーム」では、実習や体験をすることができた。そのため、事前学習で考えたことよりも、更に深く考えることができた。
・３年生の「避難所運営体験」では、２年時に避難所運営ゲームを行っていたことにより避難所運営の大まかなイメージをもって活動を行うことができた。また、役割ごとにグループワークを行い、グループの中で積極的にコミュニケーションを取る姿や自分たちにできることを考える姿が多く見られた。
・３年生の防災小説は、今まで学習してきた内容を織り込んでおり、学習の集大成として効果的だった。また、他の生徒の小説を聞くことにより、いろいろな地震災害の情景や対応を思い浮かべることができた。
・３年生の「避難所運営訓練」では、三和地区自主防災連合会の方も避難者として参加してくださり、地域学校協働活動が目指す、地域が学校を支援するだけでなく、地域の教育力の向上も図ることができた。

●課題
・地域の自主防災組織との連携を深めるための核として、資格の取得に留まらず、中学生防災士として、生徒が企画する避難訓練や避難所設営訓練などの取組を進めていく必要がある。
・生徒が学習した内容等を、保護者や地域の方々へ情報発信していく必要がある。
・避難所運営ゲーム（ＨＵＧ）の実習では、架空の体育館を避難所として想定して、ゲームを行ったが、香長中学校の体育館を想定して行った方が３年生になって行う避難所運営訓練につなぐことができる。

５　今後の取組の見通し

○中学生防災士の活動として、地域の避難訓練や避難所運営訓練などで、地域の自主防災組織と連携した活動を推進する。
○様々な状況で災害にあった場合に、適切な判断・行動ができる生徒を育成する。
○避難訓練では、地震に対する訓練を中心に、様々な災害や状況に対する訓練を実施する。
○家庭、地域、各関係機関と連携した防災学習を推進すると共に、防災学習で学んだ成果を地域に発信していく。
○防災教育に関する研究や研修を行い、教職員の資質向上を図る。また、小中連携により、系統的な防災学習のカリキュラムを確立していく。